

藤沢市アートスペース まちの彫刻ピカピカプロジェクト Vol.2 1964年東京オリンピック開催記念 のブロンズ像が美しく蘇ります！

藤沢市アートスペースでは、昨年度から市内に点在するパブリックアートの調査を開始し、2020年にはパブリックアートのマップ、冊子の刊行を目指しています。

その関連事業として、専門家指導のもと、作品を美しく蘇らせるプロジェクトを行っています。

今回は、そのプロジェクトの第二弾として、東海大学と湘南工科大学と協働し、2020年東京オリンピック開催に向けて、藤沢ゆかりの彫刻家・加藤顕清が制作したブロンズ作品のメンテナンスを実施します。



加藤顕清《弁財天と世界女性群像》1964年

実施日時：6月3日（月） 13：30～

実施場所：江の島北緑地広場（江の島 1-1）

協力：東海大学（松前記念館、東海大学課程資格教育センター）

湘南工科大学（総合デザイン学科）



この資料に関するお問い合わせ先

藤沢市役所 生涯学習部 文化芸術課 藤沢市アートスペース（愛称 FAS）
担当：井澤 小林
☎0466(30)1816 内線：6411 ✉ fj-art@city.fujisawa.lg.jp

弁財天と世界女性群像

「弁財天と女性群像噴水池」は、松下幸之助氏の寄付により東京オリンピックセーリング競技開催と湘南港完成を記念して1964年（昭和39年）10月に設置されました。

この作品は、「幻想の弁財天」をテーマに中央に瞑想する弁財天を置き、それを囲むように東洋と西洋を表した4体の女性像が配置されています。制作した藤沢市ゆかりの彫刻家・加藤顕清は当時、オリンピックを機会に東西文化の歴史的交流の意味を象徴し、表現したと語っています。



加藤顕清（1894-1966）

晩年を藤沢市で過ごした彫刻家。藤沢市美術家協会会員。

岐阜県生まれ。1915年東京美術学校彫刻科入学。

21年第三回帝展（現・日展）で初入選し、その後毎年入選。

23年東京美術学校研究科修業。28年東京美術学校油絵科卒業。

同年第9回帝展に《女人像》を出品、特選受賞。

第10回、11回ともに特賞を受賞。31年帝国美術院展覧会審査員となる。

以後帝展、日展の審査員を歴任し、36年同志と日本彫刻家協会を創立。

61年アジア善隣協会会長、足立正氏の委嘱によりインドネシア・ジャカルタ市からカルティーニ像建設のため招聘される。62年日本芸術院会員。